

農作業の共同化、機械の共同利用によるコスト削減

調整組織と受託組織の2階建て手法により、効率的な生産体制を構築し、経営規模の拡大を図る。

【類型】

水稻

+

麦

+

大豆

【組織名】 ^{みくぼ}三久保集落営農組合（平成17年12月設立）
＜任意組織（特定農業団体と同様の要件を満たす組織）＞

【所 在】 熊本県阿蘇市

【農業地域類型】 中間農業地域

【構成農家戸数】 60戸

【経営規模】

水稻 75ha

麦 30ha

大豆 27ha

飼料用稲 5ha



水稻収穫作業

設立の経緯

- 平成16年1月に水田農業推進協議会が設立されたことを契機として、土地利用型農業を担う集落営農の組織づくりに向け、話し合いを始めたが、リーダーがいないこと、「米はこれからも自分で作りたい」という意見が多かったことで、組織化には至らなかったが、その後、認定農業者、JA、町からの全面的な協力を得て、3集落がひとつになって営農組合を立ち上げ。
- その後、隣接集落を加えて、4集落をエリアとした営農組合になり、平成21年には「自分たちが頑張れる間に後継者を育てることが地域を守ることである」という理念の下、より安定した組織運営が必要と考え、3月に（株）阿蘇三久保ファームを設立。

取組の特徴・効果

- 大型機械作業による効率化、作業時間やコスト削減。
- 阿蘇地域では米、麦、大豆の輪作体系（2年3作）で、麦収穫後梅雨入りまでに大豆を播種する必要があることから地域で初めて畦立同時播種機を導入。
- 将来も安定した組織運営が必要と考え、H21年3月、構成員の中の一部（オペレーター）による（株）阿蘇三久保ファームを設立。同法人は、集落営農組合の受託事業を承継し、経営面積の拡大等に取り組む。